
灰色ノ星

心

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

灰色ノ星

【Nコード】

N2318B

【作者名】

心

【あらすじ】

失くしても、失くしても、壊れても、進まなければ。それが生きるものの、残されたものの、定めなのだと……。恋人を、彼女を失くした友達に送る詩です。BGMに、スキマスイッチさんの「雨待ち風」がピッタリだと、読んでくれた知人に感想を言っていました。

「わたしの分も、生きて……ごめんね……」

ピーー……………。

鳴り響く、機械音。

目に映るのは、白くて綺麗な肌をした、彼女。

ゆっくりと閉じた目から、

一筋の涙の線を、ゆっくりと落として、

逝ってしまった。

僕には、もう、到底迎えには行つてやる事の出来ない、世界へと。

ひとりで、逝ってしまった。

目の前がグシャグシャと、
気持ち悪く激しく……歪んでいく。

崩れていく……
壊れていく……潰れてゆく……。

色を失う。
音を失う。
心を失う。
生だけが…残る。

風の吹く、この小高い丘で、
僕はただ、灰色の空を見上げることしか、出来ないで居た。
君を失ってしまった僕の世界は、まるで、色を失くした。

生きている。
死んでいる。

どちらでも良かった。

僕は心を失った。
どうやっても取り戻せない心を。

でも。

歩き出さなければ…。

いつまでも、ここには居られないのだ。

僕が消えれば、

君の存在は、

本当に姿を消してしまうから。

君の言葉を、最後に受けたのは、僕。

僕は君の全てを請負うと約束したから。

だから、ゆくよ。僕は。

君のいない世界を、今ゆっくりと、歩いてゆく。

天気は、曇。

気温は、暖か。

君が好きな世界。

「あなたと生きていければ、私は、もう何もいらないの……」

手を取り合った記憶。

君の匂いを感じた記憶。

鼓動を、

熱を、

確かに感じていた、この記憶。

今も僕を、蝕む。

君を生きる為には、荷が重過ぎるんだ……。

だから。
ごめんね。

置いてゆくのは、
思い出と、君の白い骨が入った、綺麗な瓶。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2318b/>

灰色ノ星

2010年10月15日22時59分発行